

～ 偏りに気づきにくい時代に“よそ見”の視点を～

京都芸術センター展覧会シリーズ「FOCUS」第6回 澤田華個展『まめによそ見する足』

会期：2026年4月3日（金）～5月17日（日）

会場・会期
京都芸術センターギャラリー北・南ほか
2026.4.3(金) - 5.17(日) 10:00 - 18:00
*4月22日(水)は臨時休館のため終日閉廊 金・土曜日のみ20時まで

主催
京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)

助成 公益財団法人朝日新聞文化財団
協力 一般社団法人HAPS

京都芸術センター
KYOTO ART CENTER

京都芸術センター（京都市中京区）は、展覧会シリーズ「FOCUS」第6回として、澤田華による個展『まめによそ見する足』を2026年4月3日（金）より開催します。本展では、映像作品を中心に、館内各所に配置された作品を鑑賞者自身の足で移動しながら体験する展示を行います。

SNSによって日常化した“記録する”“見る”を問い直す三作品 —ゾンビ映画の光を頼りに京都芸術センターを歩いて撮影した新作を含む

京都芸術センターが実績を積み重ねてきた中堅アーティストを個展形式で紹介する展覧会シリーズ「FOCUS」。第6回となる今回は、写真・映像を中心に作品を発表してきたアーティスト・澤田華による個展『まめによそ見する足』を開催します。

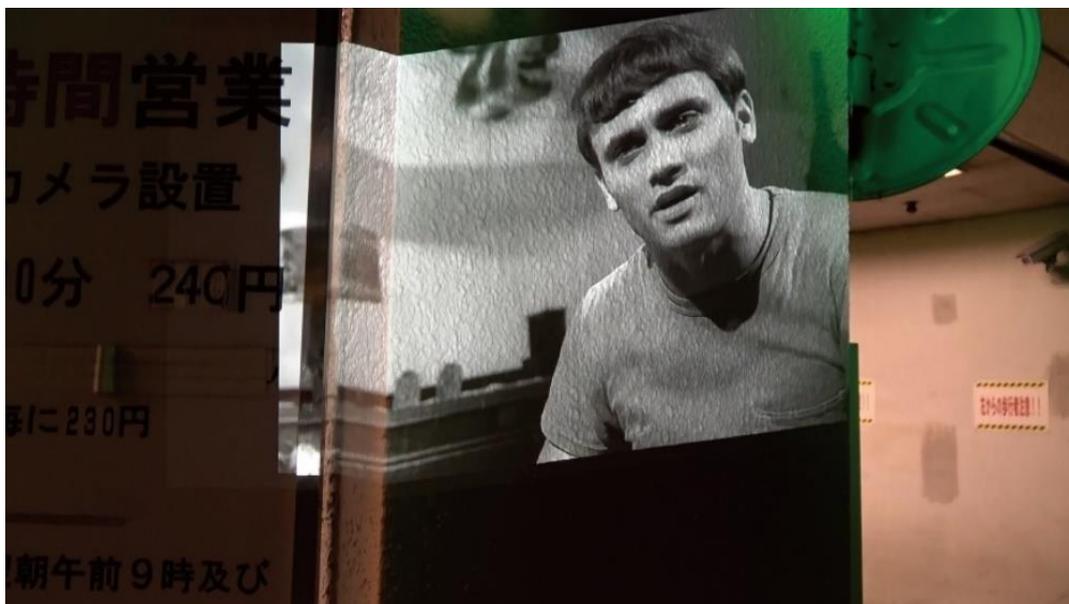
本展は、「漂うビデオ」シリーズの新作、「ビューのビュー」シリーズ、そして新作インスタレーションの三つの作品で構成されています。「漂うビデオ」シリーズの新作では、ゾンビ映画を投影するプロジェクターの光を頼りに、京都芸術センターの屋内外を歩き回り撮影した映像作品を紹介します。「ビューのビュー」は、これまで澤田が記録してきた様々な素材がコンピューターのデスクトップ上で次々と

報道関係各位

開かれたり閉じられたりする様子が、複数のモニターに映し出されます。新作インスタレーションでは、澤田が取り組んできた“ことば”に焦点を当て、歩きながら目にしたものを写真の代わりに“ことば”で記録した素材をもとに展開されます。

これら三つの作品を通して、澤田が自身の身体を動かしながら実践する、【まめに＝細かなところまで/頻繁に/律儀に/億劫がらずに】、【よそ見する＝主要な道筋から逸れた部分にも、ふと感覚を動かし経験する】態度が示されます。記録行為や SNS が日常化した現代社会において、写真や映像というメディアを通して私たちが経験する“記録する”“見る”という行為の在り方を改めて問いかけます。

作品は館内各所に配置され、来場者は自らの足で移動しながら鑑賞します。視覚だけでなく、空間や身体感覚を通して作品を経験すること—本展はこうした身体の“よそ見”を体験する場となります。特定の信念や思想に傾きやすく、その偏りに気づきにくい現代社会において、澤田の作品との出会いが、日々の生活のなかに意識的な“よそ見”を取り入れる契機となることを目指しています。



過去作品「漂うビデオ」より

展覧会概要

展覧会名： 京都芸術センター展覧会シリーズ「FOCUS」第6回 澤田華個展『まめによそ見する足』

会期： 2026年4月3日（金）～5月17日（日）10:00～18:00（金・土のみ 20:00 まで）

*4月22日（水）は臨時休館のため閉廊

会場： 京都芸術センター ギャラリー北・南ほか

料金： 無料

主催： 京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）

助成： 公益財団法人朝日新聞文化財団

協力： 一般社団法人 HAPS

WEB ページ： <https://www.kac.or.jp/events/20260130/>

報道関係各位

オープニングトークイベント

日 時： 2026年4月3日（金）19:00～20:00
会 場： 京都芸術センター 図書室（南館1階）
登 壇： 澤田華（出展作家）、寺岡樹音（京都芸術センター）
参 加 費： 無料、予約優先 <https://forms.gle/HAWFDig8Wzy8tKq5A>

展覧会シリーズ「FOCUS」とは

京都芸術センターが2018年から展開している展覧会シリーズ「FOCUS」は、一人のアーティストに焦点を当て、その活動や思考を個展形式で紹介する企画です。作品の展示にとどまらず、制作の背景にあるリサーチや問題意識にも光を当て、作家の実践を通して現代社会や歴史、文化を新たな視点から見つめ直す機会をつくってきました。

テーマを先に設定するのではなく、作家の実践そのものを出発点とすることが特徴で、国内外のアーティストを取り上げながら、現代芸術の動向や社会との関係を紹介しています。アーティストの制作活動を支援する拠点である京都芸術センターにおいて、その取り組みを紹介するシリーズとして位置づけられています。

「FOCUS」シリーズのこれまで

- FOCUS #1 木内貴志「キウチ芸術センター展」（2018）
- FOCUS #2 Marcos Forero「repeated trace」（2019）
- FOCUS #3 Maya Watanabe「Suspended States | 滞留」（2021-2022）
- FOCUS #4 伊東宣明「時は戻らない」（2022）
- FOCUS #5 麥生田兵吾「色堰き空割き息返かかか」（2023）

澤田 華

1990年京都府生まれ。2016年京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了。生活や制作の中で生じた些細な疑問や引っ掛かりを起点に、写真・映像をはじめとした様々な表現形態を用いて制作を行う。普段は何気なく受け入れてしまう行為や経験を、過剰にしたり分解したりすることで混乱を生じさせて、そこで起きていることを顕在化させようと試みている。近年の主な個展に、「ビューのビュー（陳列窓、散歩）」（LIVE ART GALLERY/東京）、「ビューのビュールーム」（山山/2024年）、「避雷針と顛末」（Gallery PARC/2022年）、「夏のオープンラボ:澤田華 360°の迂回」（広島市現代美術館/2020年）、グループ展に「VOCA展 2025」（上野の森美術館/2025年）「吹けば風」（豊田市美術館/2023年）、「見るは触れる 日本の新進作家 vol.19」（東京都写真美術館、2022年）、「第3回 PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ 2022」（京都市京セラ美術館/2022年）、「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」（愛知芸術文化センター/2019年）など。

PRESS RELEASE

報道関係各位

京都芸術センター／京都市芸術文化協会

京都芸術センター

京都芸術センターは、芸術文化の振興を目的に 2000 年 4 月に開設されました。若い世代を含む多様な芸術家の制作支援を軸に、芸術文化に関する情報発信や、芸術家と市民の交流促進に取り組んでいます。芸術家が創作活動を行い、その成果を発表するための制作室の提供をはじめ、展覧会、伝統芸能、演劇、ダンス、音楽などの公演やワークショップを実施。芸術家の発掘・育成や伝統芸能の継承、国内外の芸術家を受け入れるアーティスト・イン・レジデンス事業にも力を注いでいます。これらの活動を通じ、京都における都市文化創造の拠点として、芸術の新たな価値を社会に開く場づくりを進めています。



京都芸術センター外観

<本件に関するメディアからのお問い合わせ先>

京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会) TEL: 075-213-1000、E-mail: pr@kac.or.jp、担当: 福島